

樹種の特性を活かした生垣づくりについての調査 (令和2年度～4年度)

1 調査目的

生垣をつくる場合、その樹種や植栽環境によって、植栽後の生育や外観は大きく異なりますので、その環境や目的、好みに応じた樹種を選ぶ必要があります。

一般的に、生垣は、視線の遮蔽、侵入防止、境界の明示、寒風・騒音防止などを目的につくられることが多いですが、花や葉色、香りなどを楽しむ観賞対象としての効果も期待できます。

そこで、枝葉の密度が高く遮蔽性が高いことや、強度の刈込に耐えて萌芽しやすいなど、生垣に適すると思われる樹種を植栽して、生垣用樹としての特性を明らかにし、樹種選定の参考となる資料を作成するために調査を行っています。

2 調査内容

(1) 樹種の選定 (目標樹高)

生垣をつくる主な目的・効果により、①～③に区分し全体で11樹種を選定しました。

① 主に遮蔽性や侵入防止の効果が期待できる樹種

イヌマキ (2.0m)、スカイロケット (2.0m)、キャラボク (1.0m)

② 花や香り、葉色の変化などを楽しめる樹種

トキワマンサク (2.0m)、キンモクセイ (2.0m)、ベニカナメ (レッド・ロゼン) (2.0m)
モッコウバラ (1.5m)、キンマサキ (1.0m)

③ おしゃれで印象的な外観が期待できる樹種

ナンテン (1.5m)、ドウダンツツジ (1.0m)、フィリフェラオーレア (0.4m)

↑ スカイロケットの樹間に植栽

(2) 植栽及び育成管理

延長3mの区画を10区画設け、上記樹種を5～8本植栽して生垣をつくり、必要に応じ横支柱を設けています。

樹種の特性に合った剪定や病害虫の防除作業等を行い、優れた外観となるように適切な育成管理に努めています。

調査地全景

(R2. 5. 21)

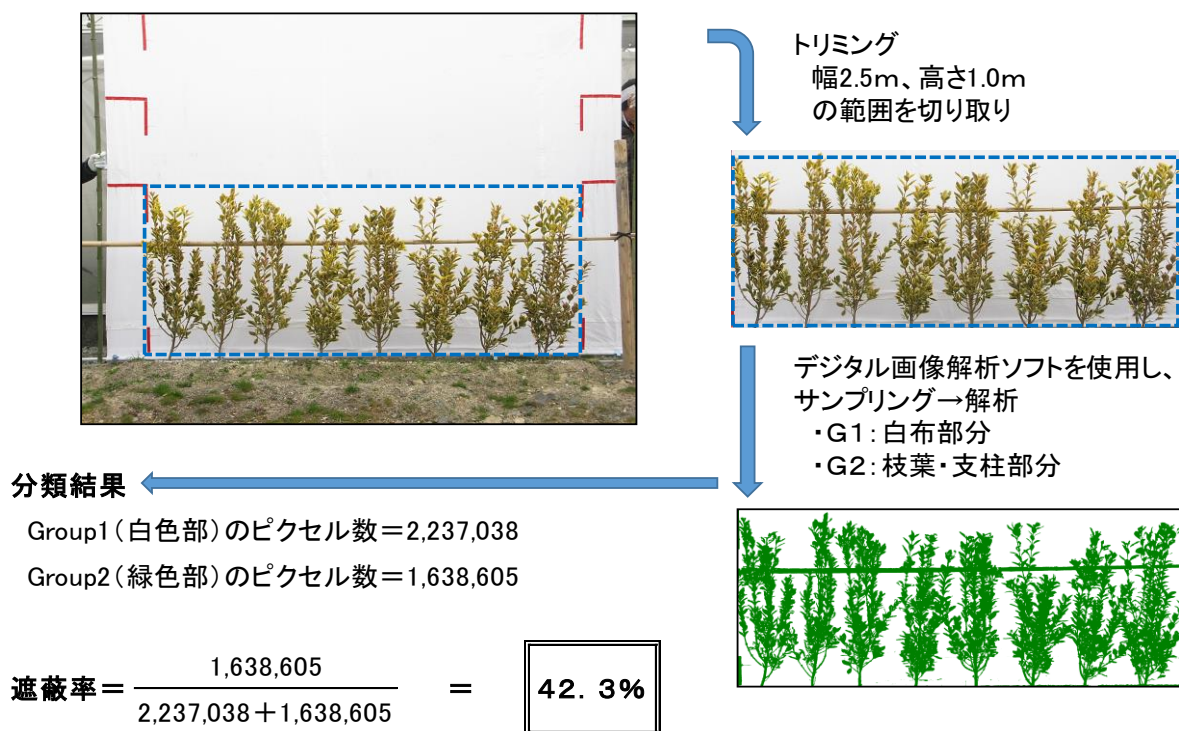


(3) 調査内容

- ・コスト：苗木の購入や維持管理等に要する経費
- ・生育状況：外観の推移や病害虫の発生等を観察・記録
- ・遮蔽率：定点撮影し、デジタル画像解析ソフトを使用して生垣により背景が遮蔽される割合を算出
- ・育成管理の難易度：樹種の特性に合った必要な管理を行い、作業量を記録

(4) 遮蔽率の算出

遮蔽率は、白布を背景にして生垣を正面から撮影し、樹種毎に設定した目標樹高と幅2.5mの範囲をトリミングして、デジタル画像処理し、樹木等により背景が遮蔽される割合を算出しています。



(5) 令和2年度における外観及び遮蔽率の推移

令和2年度の調査における外観の記録写真と当該月の遮蔽率を抜粋して紹介します。
写真は開花や新緑、紅葉など、樹種の特徴が現れている時期の写真を掲載しています。

【キャラボク】

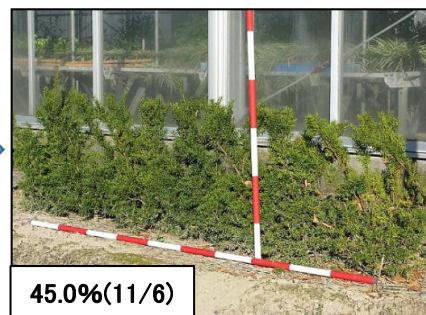
R2. 3. 23



R2. 5. 21

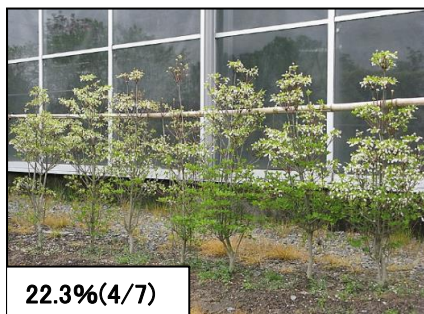


R2. 11. 24

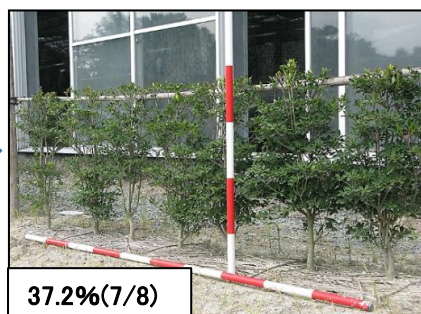


【ドウダンツツジ】

R2. 4. 20



R2. 7. 21



R2. 11. 24



【キンマサキ】

R2. 3. 23



R2. 5. 21



R2. 9. 18



【モッコウバラ】

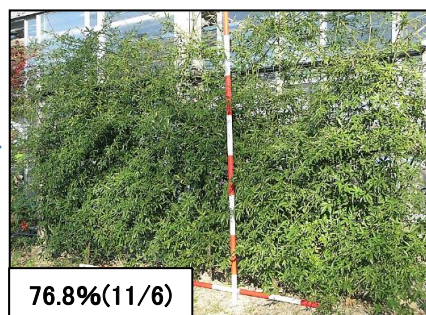
R2. 3. 23



R2. 5. 21



R2. 11. 24

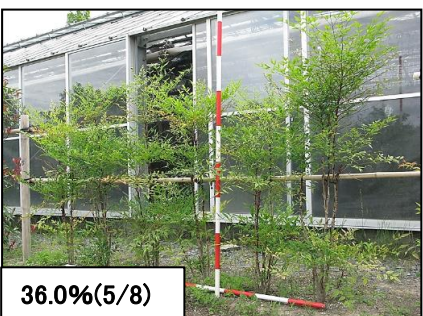


【ナンテン】

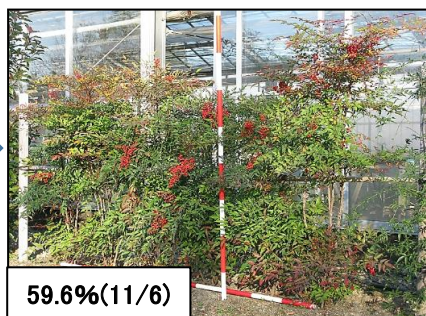
R2. 3. 23



R2. 5. 21



R2. 11. 24



【レッドロビン】

R2. 3. 23



R2. 7. 21

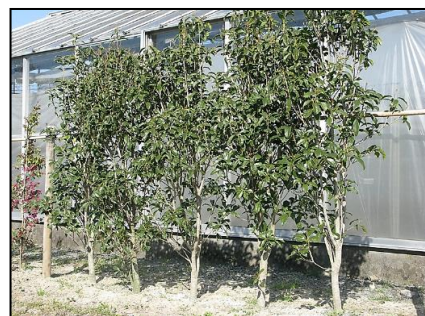


R2. 11. 24

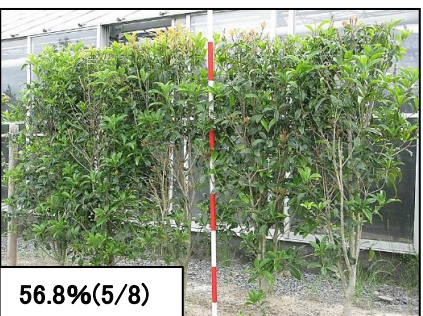


【キンモクセイ】

R2. 3. 23



R2. 5. 21



R2. 10. 21

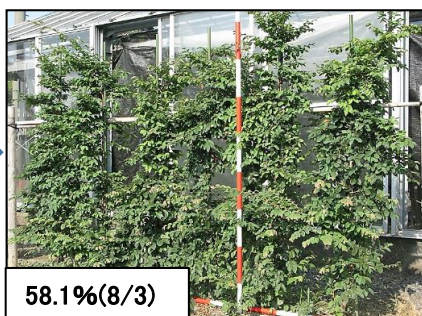


【アカバナトキワマンサク】

R2. 4. 20



R2. 8. 24



R2. 10. 21

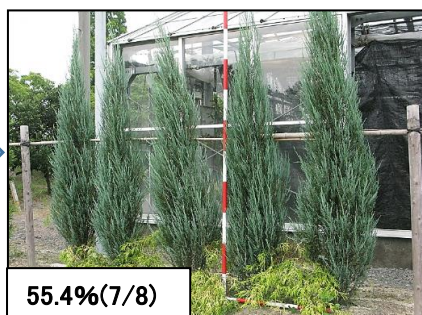


【スカイロケット(フィリフェラオーレア)】

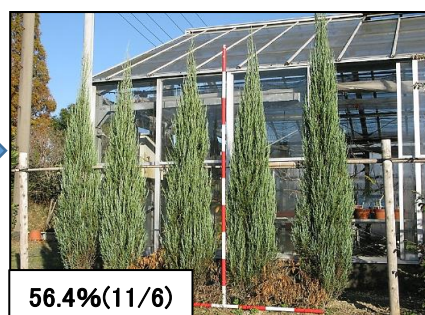
R2. 3. 23



R2. 7. 21



R2. 11. 24

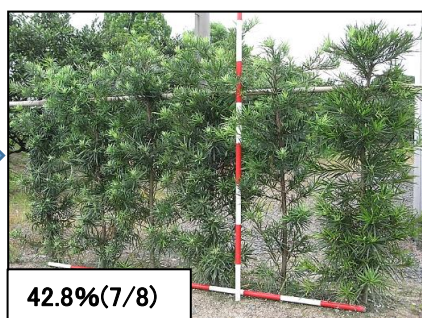


【イヌマキ】

R2. 3. 23



R2. 7. 21



R2. 10. 21

